

第4章 ボールルームダンス関係団体の使命と役割

歴史的経緯の中で造られた文化的偏見と蔑視を打破し、21世紀の新たなボールルームダンス文化を構築することは、いうまでもなく、ボールルームダンス関係団体に課せられた重要な使命である。そして、その具現化のために取り組むべき振興課題と方策については既に述べてきた。

ここでは、それらの具体的方策の基調となる組織の使命と役割についての考え方を示そう。

1. ボールルームダンス文化の振興と発展

(1) ボールルームダンス文化の普及と振興

ボールルームダンス関係団体は、その文化享受を共同のものとし、相互の支え合いによって、それをより豊かにするために組織されるものであるから、市民社会におけるボールルームダンス文化の普及と振興は、何にも優るその使命となる。

どのような社会的組織・団体であろうとも、社会的な承認と支持を得るためには、自己の利益を守るためだけではなく、組織活動を通じて、組織がもつ社会的・文化的意義を実現し、社会的・文化的貢献をなすことが求められる。いずれも、市民社会のなかに生き・生かされているからである。

とりわけ、文化・スポーツ関係団体は、その文化享受を共有し、相互の支え合いによって、それをより豊かに享受するために組織されるものであるから、市民社会における文化の普及と振興とは、何にも優る使命となる。ボールルームダンス関係団体もこの例外ではない。

したがって、この使命を適切に果たすため、ボールルームダンス関係団体には、その本質的な魅力、価値の気づき、文化的特性の理解を基調として、ボールルームダンスの学習を支援し、人々により豊かな文化享受をもたらす役割を担うことが求められる。つまり、ボールルームダンスの機会・場・仲間・情報・資源などを組織化し、市民社会に向けて積極的に提供することによって、文化の普及と振興に努めることが望まれるのである。

こうした市民社会との豊かで開かれた交流の中で、ボールルームダンス関係団体の組織活動は活性化し、その閉鎖性を脱却し、広く社会的理解を得ることができるのである。

(2) ボールルームダンス文化の開発と発展

ボールルームダンス文化の開発と発展は、専門家集団を含む関係団体によって担われる。この開発と発展は、競技力開発とともに、社会的・公共的意義に関してものぞまれるから、関係団体には、総合的な研究開発への取り組みが求められる。

市民社会における文化の発展が、商業主義的市場による消費文化化の弊害を避けるためには、それが愛好者による社会組織によって担われることが求められる。とりわけ、専門家集団を含む文化・スポーツ団体には、当該文化の向上と発展を導くための先端開発を担い、それによって市民文化を先導することが望まれる。したがって、ボールルームダンス文化の向上と発展のために、関係団体が人々の文化享受能力の一般的な向上に努めるとともに、世界的な水準を見据えた高度

な競技力開発の意図的、計画的、組織的な取り組みが望まれる。例えば、高度な美的パフォーマンスにおいては、民族的個性の表現が不可欠な要素であることを配慮するとき、ボールルームダンスにおいても、西欧的標準に科学的に対応するとともに、我が国における舞踊の伝統的な所作や精神性を生かし、効果的に活用する等の工夫が求められよう。そしてそれは、我が国の競技力開発に意義を持つばかりでなく、より多様な民族性を内包することによって、ボールルームダンスが一層豊かなグローバル文化へと発展するための、我が国の大きな文化的貢献ともなる。

また、文化の向上と発展は、広く市民社会に支えられるものであることから、ボールルームダンスは、固定化した文化的意義のみを基調とするのではなく、変化する社会と暮らしに対応しながら、新たな社会的・公共的意義と利益を開発してゆくことが求められる。例えば、両性の相違を相互に尊重するボールルームダンスの高い精神性の伝統を尊重しながらも、これからの男女共生社会における新しい関係の在り方を配慮し、それに対応するボールルームダンスの工夫も望まれよう。また、長寿化人生・高齢化社会を迎えた21世紀におけるダンスライフスタイルの開発も重要な課題である。

したがって、ボールルームダンス関係団体には、競技力開発とともに、ボールルームダンス文化の社会的・公共的意義の開発を担う総合的な文化研究への組織的な取り組みが望まれるのである。

2. ボールルームダンスの文化的意義の擁護と発展

(1) ボールルームダンス愛好者の権利擁護

ボールルームダンス愛好者の諸権利を擁護し、楽しみの享受を支援することはボールルームダンス関係団体の基本的な使命である。従って関係団体は、それを果たすことによって、愛好者のアイデンティティの拠り所となり、深い帰属意識を醸成していくことが望まれる。

文化・スポーツ団体は、愛好者が楽しみを共有し、相互に支援することによってより豊かに享受するためにつくられる。したがって、ボールルームダンス関係団体のもう一つの使命と役割は、愛好者の諸権利を擁護し、その享受を支援することにある。つまり、愛好者の楽しみと喜びを享受する権利を保障し、ときにはそれを保護し、より豊かな享受を求める能力開発を組織的に支援することが求められる。

愛好者の権利擁護は、ただ単に個人の権利を保障し、享受能力の開発を支援することにとどまらない。ボールルームダンスの文化的享受は、愛好者個人の能力や条件だけでなく、さまざまな文化的、人的、物的資源の支えが必要だからである。したがって、こうした関係資源を整備してより豊かな享受環境を整えていくことも、関係団体の重要な役割となる。また、ボールルームダンス享受に関する不当な差別や蔑視、あるいは社会的・文化的抑圧に対しては、これと闘い、是正していくことも関係団体に求められる。

こうした使命と役割を果たすことによって、関係団体は、愛好者のアイデンティティの拠り所となり、深い帰属意識を醸成していくことが望まれるのである。

(2) ボールルームダンスの文化的意義の擁護と高揚

愛好者権利の擁護が特権への固執になることは厳に諫められねばならない。そのために関係団体は、公共的利益をもたらすボールルームダンスの文化的意義を擁護し、高揚するという使命と役割の自覚が求められる。

愛好者の権利擁護は、決して特権への固執につながるものであってはならない。つまり、関係団体が閉鎖的で排他的になり、その組織力を行使してボールルームダンス文化の享受を独占したりすることは、厳に戒められねばならないのである。なぜなら、権利擁護が特権への固執につながれば、ボールルームダンス文化は、市民社会からの支持を失い、その存在意義が喪失してしまうからである。また、文化的生活の確立が求められる21世紀の市民社会においては、ボールルームダンス文化の享受は、基本的にすべての人々の権利でもあるからである。

したがって、ボールルームダンス関係団体には、自らの私的利益のためではなく、万人に開かれた公共的利益のためにその文化的意義を擁護し、高揚するという崇高な使命と役割を担うことへの自覚が求められるのである。

(3) 踊りを楽しむダンスエネルギーの結集と世論形成

ボールルームダンスの文化的意義の擁護と高揚には、市民社会の支援と支持が求められる。したがって、関係団体には、市民生活に内在する踊りを楽しむダンスエネルギーを引き出し、結集することによって、ダンス世論を形成していくことが望まれる。

前述した崇高な使命と役割を担っていくには、市民社会からの広範な支持と支援が求められる。そして、その支持と支援の必要性と可能性は、これからの市民生活におけるボールルームダンスの文化的意義を考えていくとき、きわめて大きなものがある。

長い間、文化的蔑視の下に置かれ、偏ったイメージに支配されてきたボールルームダンスは、豊かな文化性を有しているにもかかわらず、今なお他の諸芸術・スポーツと同様に扱われてはいない。それ故、我が国のボールルームダンスを取り巻く社会的・文化的環境はきわめて貧弱であるばかりでなく、なお抑圧された状況が残っている。この状況を克服し、ボールルームダンスの文化的意義をさらに高めていくには、関係団体による改革への真摯で地道な努力とともに、それを理解し支える市民社会の力が望まれる。

したがって、ボールルームダンス関係団体には、市民生活に内在するダンスエネルギー、即ち、踊る喜びへの欲求、交流の楽しみへの期待などを引き出すとともに、その文化的意義を市民的コンセンサスとして確立することによって、そのエネルギーを結集し、社会的パワーを有する世論の形成を導く組織的な取り組みが望まれるのである。そして、このようなダンスエネルギーの組織化やダンス世論の形成のためには、ダンス諸組織の連携を支援、その活動の共通基盤となる物理的・空間的拠点の建設も求められよう。

3. ボールルームダンス界の統括権と代表権の確立

(1) ボールルームダンス組織の公共的使命と統括権の確立

ボールルームダンス文化の健全な発展を導くためには、それぞれの組織が振興のための共通ビジョンをもち、それをベースとした組織間の協調関係が求められる。そのためには、それぞれの組織パワーを結集する統括権を有する組織の整備が求められる。

踊る喜びと交流する楽しみを享受する権利を擁護し、市民社会においてボールルームダンスの文化的意義を遍く定着させるという崇高な公共的使命と役割を考えると、ボールルームダンス界には、しっかりとした強い組織的パワーが求められる。

市民社会における文化享受は、主体的で自立的な民間活動を基調とする。なぜなら、文化享受の自由な営みが市民社会からの広範な理解と支持を得るためには、組織的な相互支援と同時に、営みの適切さに関する主体的な評価が望まれるからである。そして、このような自省のシステムを有することは、社会的存在としての民間団体の自律化にとって不可欠のことである。

現在のボールルームダンス界は、プロフェッショナルとアマチュアが異なった組織体制をもつばかりでなく、プロフェッショナルだけでも複数の団体が存在するという、きわめて未整備な状況にある。多くの組織がそれぞれに主体的な活動を展開することは、基本的には好ましいことである。しかし、ボールルームダンス文化の健全な発展を導くためには、文化的意義の共通認識に支えられた振興ビジョンとそれをベースにした協調関係が求められ、そうした関係を創り出す統括権の確立が望まれるのである。

したがって、ボールルームダンス界には、それぞれの組織の主体的な活動を尊重しつつ、その活動がボールルームダンス文化の発展につながるよう支援するとともに、組織パワーを結集するための全国的な統括権を有する組織の整備が求められるのである。こうした統括権を有する組織が真に機能するためには、その運営が民主的になされねばならないことは言うまでもない。

(2) ボールルームダンス界の社会的責任と国際的 대표権の確立

統括権を有する組織は、ボールルームダンス界の諸権利を擁護するとともに、過去とともに未来を約束する責任をも負う。こうした責務を果たすと共に、世界のボールルームダンスの発展に寄与していくためには、統括組織が国際的 代表権を有することが求められる。

統括権を有する組織は、ボールルームダンス界のパワーを結集させ、諸権利と諸利益を擁護することによって、その発展に対する大きな社会的責任を負う。つまり、加盟団体の諸権利と諸利益、愛好者のボールルームダンス享受の保障とその擁護に責任をもつばかりでなく、ボールルームダンス界の過去を負うとともに、その将来の発展を約束する社会的責任をも負託されるのである。

ボールルームダンスの統括組織は、こうした重大な責務を果たすために、政界や財界、司法や警察、メディアやそのほか社会的・文化的諸団体などの良好な関係を確立し、ときには支援を求め、ときには抑圧に抗していくことが求められる。また、世界組織や諸外国の関係組織との協力関

係を確立することによって、我が国の諸権利と諸利益を擁護しさらに発展させることも求められる。

しかしながら、現状における組織の乱立は、諸外国との関係や国際的諸関係にかかわって、しばしばそれに揺さぶられるというきわめて不利な状況を生み出している。このような状況から脱却し、真に自立した確固たる統括組織とするためには、統括権とともに、国際的 대표権を確立することも求められる。

したがって、統括組織には、内に向けての統括権に対応する、外に向けての我が国のボールルームダンス界、即ち、すべての関係組織、そしてすべての愛好者を代表する権利を有することが望まれるのである。国際化と地域重視の均衡が求められる21世紀において、ボールルームダンス統括組織が国際的 대표権を有することは、我が国のボールルームダンス界が、世界のボールルームダンスの発展に寄与することを意味する。その意味でも国際的 代表権を有する統括組織の整備が求められるのである。

4. 財団法人日本ボールルームダンス連盟への期待

(1) 公益法人としての(財)日本ボールルームダンス連盟の使命と役割

(財)日本ボールルームダンス連盟は、豊かな市民生活の創造に寄与する公共的使命と社会的責任を負託された公益法人であり、本提言に応える具体的事業を推進するとともに、統括権と国際的 代表権を有する統括組織の整備に取り組むことが求められる。

我が国のボールルームダンス界において、(財)日本ボールルームダンス連盟がもっとも確固とした社会的地位を有した団体であることは、それが財団法人の資格を得ていることに明確に示されている。周知のように、財団法人は、その営みが私的利益追求のためにあるのではなく、公共の利益を高め、社会的福利に大きく貢献することを使命とする組織である。とりわけ、文化やスポーツにかかわる財団法人には、当該文化の発展に対する寄与を通じて、公益法人としての公共的使命を果たすことが求められており、その社会的責任が負託されているのである。

したがって、(財)日本ボールルームダンス連盟には、ボールルームダンスの文化的発展への取り組みを通じて、すべての人が健やかな生、豊かな交流、伸びやかな自己開発を追求し、豊かな生活を創造することに寄与するという崇高な公共的使命を担い、その使命を果たす社会的責任が負託されている。

この意味において、(財)日本ボールルームダンス連盟には、「ダンスの本質的な価値と文化的意義」(第2部の第2章及び第3章)を手がかりにして、21世紀のボールルームダンス文化の発展を導くビジョンを確立するとともに、我が国における「ボールルームダンスの振興課題と方策」(第1部の第1章及び第4章)に応える具体的事業を組織的に展開することが望まれる。そして、その事業を我が国ボールルームダンス界の総力を結集した取り組みとするため、積極的にリーダーシップを発揮して関係団体の主体的活動を支援するとともに、統括権と国際的 代表権を有する統括組織の整備に取り組むことが求められる。

(2) すべての愛好者を統括する組織としての(財)日本ボールルームダンス連盟へ

(財)日本ボールルームダンス連盟には、ボールルームダンスの普及と振興への真摯な努力を通じて、広く愛好者の理解と支持を得、プロフェッショナルとアマチュアが共存しうる組織体制の整備に尽力することが期待される。

21世紀の市民生活において、ボールルームダンスは人間的成熟に向かう文化享受の一つとしてきわめて重要な意味をもつ。そしてその発展に携わる民間団体は、商業主義化の弊害を排除し、文化的意義を市民生活に遍く浸透するきわめて大きな使命と責任がある。したがって、関係団体には、すべての愛好者に開放されていると同時に、豊かな経験をもつ教養者としてのアマチュアと、高潔な文化的使命の自覚を有する専門家としてのプロフェッショナルとの協調が求められる。

したがって、(財)日本ボールルームダンス連盟は、我が国ボールルームダンスの発展に対して、大きな公共的使命と社会的役割を負託され、その責任を有していることから、プロフェッショナルとアマチュアが共存できる組織体制の構築に最大限の努力をはらっていくことが望まれる。

その際、プロはその名に値するプロフェッショナルとしての使命と役割を自覚し、それを共通の行動規範にすえて、私的な利益追求や特権擁護を越えた組織活動に努めることが望まれる。なぜなら、真のプロフェッショナリズムとは、その文化の担い手になることを自覚し、その発展への寄与を通じて公共の利益を高め、社会的福利に貢献する役割を引き受ける思想にはかならないからである。したがって、プロフェッショナルには、私的利益の追求のみにボールルームダンスを利用しようとする商業主義に抗してその弊害を排除し、文化的意義を遍く浸透させる努力をすることを自らの使命とすることが求められる。

他方、アマチュアには、真にボールルームダンスを愛することが求められる。アマチュアの語源が“愛する”ことを意味するアモレにあるように、真のアマチュアとは利害を離れて文化を愛する者だからである。その意味では、アマチュアもまた文化発展への自己責任を有している。したがって、アマチュアには、ただ単にボールルームダンスを好むのではなく、それがきわめて「大切なもの」であることへの自覚が求められる。そのことによって、ボールルームダンスの文化的意義がしっかりとメンバーのなかに根づき、その意義に基づいた真の普及と振興への取り組みが生まれるのである。

(財)日本ボールルームダンス連盟には、こうしたプロフェッショナルとアマチュアに共通のボールルームダンスへの愛を基調にして、我が国ボールルームダンス界においてリーダーシップを積極的に発揮し、さまざまな課題と方策に対応する具体的事業を組織的に展開していくことが望まれる。そして、ボールルームダンスの普及と振興への真摯な努力を通じて、広く愛好者の理解と支持を得、プロフェッショナルとアマチュアが真に共存できる、即ち、すべての愛好者に開かれた組織体制の整備に尽力することが期待される。